

## 研究論文

## 北部九州における縄文時代前期の遺跡の利用状況について—考察

小川香菜恵

### 要 約

九州における縄文前期の連続する3つの土器型式（轟B式・西唐津式・曾畠式）が出土する遺跡を、出土状況別に4つのパターンに分類し、ひとつの遺跡における土器型式の変遷を評価することで、土器の伝播や遺跡の利用状況について考察を行なった。今回の調査では佐賀県・長崎県・福岡県・大分県の4県を対象としたが、各県で分類結果に微妙な違いが見られた。西唐津式は良好な出土事例に恵まれず、編年上の取り扱いについて議論があるが、本稿では出土している事実に重きを置いて出土状況を捉えた結果、西唐津式を出土する遺跡は4県とも3型式全てを出土するものが多いことがわかった。また、そのような3型式とも出土する遺跡は基本的に分布に偏りがなく、各地に存在することから、3型式を出土する遺跡が拠点となって土器が伝播していったのではないかと推測した。今回の出土パターンの分析には、細分型式の時間幅を考慮しておらず、土器型式が編年上で共存する可能性もあることから課題はあるが、遺跡の利用状況やその性格について新しい視点で臨むものである。

**キーワード：**縄文前期・九州・轟B式・西唐津式・曾畠式

### はじめに

九州地方の縄文前期の土器として轟B式と曾畠式が時期的に連続して存在する。この2型式には文様に大きな隔たりがあり、両者の中間的な特徴を持つ西唐津式が介在することで、型式的変遷をスムーズに捉えることができるようになっている。しかしながら、西唐津式はこれまでに一括資料や層位的に分類できるような良好な出土事例がなく、研究者によっては轟B式・曾畠式と同時期に共存するとする意見もあり、編年上の位置づけについては見解が分かれている。

本稿では、西唐津式は一時期を形成していたかどうか、ということにはこだわらず、出土している事実に重きを置いた。後に述べるが、西唐津式は単独で出土した遺跡が轟B式や曾畠式に比べて極端に少なく、出土量を見てもその場所において一時期を形成したとは判断しがたい。西唐津式の出土事例のほとんどが、轟B式・曾畠式のどちらか一方もしくはその両方とともに出土している。このことが時期的な段階設定を難しくしている要因のひとつであるが、一時期を形成していくとも、類型化可能な文様等の特徴を共通して有している土器がわずかながら各地に分布していることについて、その出土状況を考察することは土器の伝播や遺跡の利用状況を探る上で有用であると考える。土器編年研究とは違った視点で当時の様相について試験的な検討を行なっていきたい。

### 1. 遺跡の分類

長崎県・佐賀県・福岡県・大分県を調査範囲として、出土する土器型式の組み合わせ別に遺跡を分類した。調査対象遺跡は九州縄文研究会2013・2014をもとに抽出した（表6）。表6中の「？」は、出土が確認できるものの、出土量が少なかったり、細分可能な良好な資料に恵まれなかつた例を表わしている。「？」については参考事例として原文のまま掲載し、表1～5では〔 〕内にその数値（遺跡数）を記した。また、本文中に記した遺跡数は特段の言及が無いものは「○」の数のみをカウントしている。なお、表1・3～5中で、2型式以上出土している遺跡をカウントする際、どちらかに「？」が含まれる場合、「？」として扱った。

3型式のうち1型式のみを出土する単独出土の遺跡、連続する2型式（轟B式と西唐津式、もしくは、西唐津式と曾畠式）を出土する遺跡、連続しない2型式（轟B式と曾畠式）を出土する遺跡、3型式とも出土する遺跡の4パターンに分けた。単独出土が一時期の利用であるのに対し、複数型式が出土するということは、その間遺跡が継続して利用されたととらえることができる。また西唐津式や曾畠式の単独遺跡とは、轟B式期以降新しく形成された遺跡として、居住地の変更や新規開拓などが想定できる。

## 2. 各地の様相

今回の調査範囲では、西唐津式の単独遺跡は福岡県で1カ所、大分県で2カ所確認できたが、西唐津式を出土する遺跡数に占める割合は低い。すなわち、西唐津式を出土する遺跡のほとんどが前後の型式のいずれか一方もしくは両方を出土していることになる。中でも、3型式とも出土する遺跡の割合が全県で高くなっている（表4）。ちなみに、単独遺跡における出土量はわずかであり轟B式や曾畠式のそれと比較しても一定期間存続していたとは考えにくい。また、西唐津式が出土する遺跡が集中するエリアというのは、後述する佐賀県の一部を除いて特に該当はなかった。

長崎県では、前期の遺跡が60カ所あるのに対し、轟B式が出土する遺跡が37カ所、西唐津式が出土する遺跡が18カ所、曾畠式が出土する遺跡が59カ所を数え、時期が下るにつれ遺跡数が増えていることがわかる（表2）。轟B式・西唐津式・曾畠式の3型式が全て出土する遺跡が16カ所あり、4県のなかでも多い。轟B式を出土する遺跡のほとんどから曾畠式が出土しており、轟B式の単独遺跡が少ない（表3）。反対に、曾畠式は単独遺跡の割合が高く、「？」の遺跡を加えると半数を超える。曾畠式期になって新しく遺跡が形成される傾向にあったことが推察できる（表5）。

佐賀県では、前期の遺跡数が24カ所となっており他県と比べても少ないが、長崎県と同様に轟B式と曾畠式では後者を出土する遺跡が増えている（表2）。轟B式の単独遺跡がなく、前期遺跡の多くが複数時期を跨いで継続利用されている。西唐津式を出土する遺跡は12カ所あり、県内の前期遺跡数に対する割合は他県に比べて高くなっている（表2）。

先に述べたように、佐賀県内では西唐津式を含む3型式が全て出土する遺跡の立地に特徴があり、西唐津

式の標式遺跡である西唐津海底遺跡の所在する唐津湾に面した一帯と、佐賀市富士町にある嘉瀬川ダム建設に伴う調査で発見された山間部の一帯に集中する。地形的に限定されたエリアに出土例がまとまっている点は注目すべきである。

福岡県では、轟B式と曾畠式の出土遺跡数が同程度であり、長崎・佐賀とは通期の状況が違って増減はほぼないといえる。しかし、轟B式、曾畠式とともに単独出土の割合が高く、継続利用を上回るのが特徴である（表3・5）。このことについて、県内の型式別分布状況をみてみると、県東北部の筑豊地域での西唐津式、曾畠式の出土例が少なく、各型式の分布に偏りがあることが見て取れ、前期間中の広範囲にわたる居住地の移動が想起される。また、轟B式、曾畠式の遺跡が一時期の利用を示す単独出土であるのに対し、西唐津式が出土するのは3型式全てが出土する長期継続利用が想定できる遺跡に多い点に違いが見られた（表4）。

大分県では、轟B式が43カ所、西唐津式が12カ所、曾畠式が23カ所から出土しており、轟B式から曾畠式にかけて遺跡数が少くなる傾向が見られる。轟B式の単独出土の割合が高いが、曾畠式にもそれがわずかに見られることから（表3・5）、単純にもともとあった遺跡が無くなっていたのではなく、時期が下るにつれ遺跡数全体が縮小傾向にありながらも曾畠式期においても新しい場所に遺跡が形成されたことがわかる。他県と同様に、西唐津式の出土遺跡数は少なく、3型式全てが出土するパターンが多いことは共通する。消えていく遺跡がある中で、一部だけが継続的に利用されていたといえる。

表1 各県における前期遺跡の出土パターン別の状況

	単独	轟Bと曾畠	轟Bと西唐津／西唐津と曾畠	3型式全て	計
佐賀県	10[1]	5[1]	3[1]	6[3]	24[6]
	42%	21%	13%	25%	100%
長崎県	30[25]	12[6]	2[0]	16[1]	60[32]
	50%	20%	3%	27%	100%
福岡県	76[4]	22[2]	3[0]	12[2]	113[8]
	67%	19%	3%	11%	100%
大分県	32[6]	9[0]	3[0]	7[1]	51[7]
	63%	18%	6%	14%	100%
計	148[36]	48[9]	11[1]	41[7]	248[53]
	60%	19%	4%	17%	100%

\*「[ ]」内は「？」の数、割合は「○」の数で算出した

表2 各県における前期遺跡総数に対する  
土器型式別の遺跡数の割合

	前期遺跡数	轟B	西唐津	曾畠
佐賀県	24[6]	16[1]	12[1]	24[4]
		67%	50%	100%
長崎県	60[32]	37[0]	18[1]	59[31]
		62%	30%	98%
福岡県	113[8]	78[1]	16[3]	73[5]
		69%	14%	65%
大分県	51[7]	43[5]	12[1]	23[2]
		84%	24%	45%

\*「[ ]」内は「？」の数、割合は「○」の数で算出した

### 3. 出土パターンからの一考察

西唐津式を出土する遺跡の状況に注目してみると、轟B式と西唐津式ないし西唐津式と曾畠式の2型式を出土する遺跡よりも3型式全てが出土する遺跡が割合として高く、それが4県に共通している。それぞれの遺跡の立地をみても、3型式全てが揃う遺跡という

表3 轟B式土器を出土する遺跡

	単独	轟Bと曾畠	轟Bと西唐津	3型式全て	計
佐賀県	0[0]	5[1]	2[0]	6[3]	13[4]
	0%	38%	15%	46%	100%
長崎県	2[0]	12[6]	0[0]	16[1]	30[7]
	7%	40%	0%	53%	100%
福岡県	38[0]	22[2]	3[0]	12[2]	75[4]
	51%	29%	4%	16%	100%
大分県	23[5]	9[0]	3[0]	7[1]	42[6]
	55%	21%	7%	17%	100%
計	63[5]	48[9]	8[0]	41[7]	160[21]
	39%	30%	5%	26%	100%

\*[ ]内は「?」の数、割合は「○」の数で算出した

表4 西唐津式土器を出土する遺跡

	単独	轟Bと西唐津 西唐津と曾畠	3型式全て	計
佐賀県	0[0]	3[1]	6[3]	9[4]
	0%	33%	67%	100%
長崎県	0[0]	2[0]	16[1]	18[1]
	0%	11%	89%	100%
福岡県	1[1]	3[0]	12[2]	16[3]
	6%	19%	75%	100%
大分県	2[0]	3[0]	7[1]	12[1]
	17%	25%	58%	100%
計	3[1]	11[1]	41[7]	55[9]
	5%	20%	75%	100%

\*[ ]内は「?」の数、割合は「○」の数で算出した

表5 曾畠式土器を出土する遺跡

	単独	轟Bと曾畠	西唐津と曾畠	3型式全て	計
佐賀県	10[1]	5[1]	1[1]	6[3]	22[6]
	45%	23%	5%	27%	100%
長崎県	28[25]	12[6]	2[0]	16[1]	58[32]
	48%	21%	3%	28%	100%
福岡県	37[3]	22[2]	0[0]	12[2]	71[7]
	52%	31%	0%	17%	100%
大分県	7[1]	9[0]	0[0]	7[1]	23[2]
	30%	39%	0%	30%	100%
計	82[30]	48[9]	3[1]	41[7]	174[47]
	47%	28%	2%	24%	100%

\*[ ]内は「?」の数、割合は「○」の数で算出した

のは各地に存在しており、4県下では西唐津式が狭い地域限定で分布した様子というのは認められない。分布に偏りがみられないということは、押し並べてどの遺跡にも3型式全てが流入していておかしくないのが、実際はそうはない。この点に3型式全てが出土する遺跡の、他の遺跡に対する優位性を感じられる。新型式の発源地域に近い遺跡から満遍なく土器が拡がっていったのではなく、各地にある遺跡のまとまったエリアに、まず小規模に西唐津式が流入して来たが、その後エリア内の他の遺跡には充分に枝分かれしていくか、絶えたあるいは浸透する前に次代である曾畠式期を迎ってしまったというような状況が推察される。しかし佐賀県で見られた3型式が出土する遺跡の集合地では、限られた地形が作用してエリア内で網羅的に西唐津式が共有されたものと思われる。このような事例を除いて、新しい土器の第1の流入先として3型式が出土する遺跡が特別な役割（性格）を有していたように思われる。

長崎と佐賀では、曾畠式期になり遺跡数が増える状況があると述べたが、遺跡の出土パターンをみると轟B式の単独遺跡が双方とも少ないので対し、曾畠式においては長崎で単独遺跡が半数近くを占め、一方で佐賀では単独遺跡もあるが、轟B式や西唐津式期から曾畠式期まで継続する遺跡の割合が多いことがわかる。長崎では曾畠式の細分や断定が難しい「?」の遺跡が単独遺跡に多く、これらが単独遺跡としてカウントされるならば、県内での単独遺跡の優位性が高まり、佐賀とは異なる様相が現れる。すなわち、長崎では曾畠式期になって新しい土地にも積極的に遺跡が築かれたのに対し、佐賀では以前と変わらない場所を利用し続けることが多かったという居住スタイルの差があったことが推察できる。長崎県では深堀遺跡の調査で轟B式以前に海進・海退が起こり、その影響で陸化した土地に遺跡利用が始まり、その後風成砂丘が形成され、西唐津式・曾畠式期に人々の生活が営まれていったことが明らかにされている。すなわち、西唐津式期以降、安定した土地を確保した人々が新天地での生活を拓いていった様子は、今回の調査結果と矛盾しない。

### おわりに

遺跡の性格や役割を考える上で、明確な遺構が残っておらず、土器以外の特別な遺物もない場合、それを特定するのは難易度が高い。そのような遺跡は土器をもって大まかな形成の時期を判定して、同時代の遺跡数にカウントされ分布地図上にポイントを打たれる。

今回の出土パターン別の分類では、出土土器型式の連続性・非連続性に焦点を当て、新しい視点で遺跡を評価した。出土パターンの分類には細分型式の時間幅を考慮しておらず、型式が共存する可能性もあることから時間軸の面で課題はある。一方で、3型式がほぼ変わらない時期に存在していたとして、同時期の同地域内で複数の型式の土器が出土する遺跡とそうでない遺跡が共存するということになるが、それはそれで興味深い差が発現することになり、おもしろい。今後、各型式とも良好な出土事例に恵まれれば編年は発展し、靄のかかった当時の暮らしのイメージはよりクリアになる。それまでは既存の発掘成果をさまざまな角度で捉え直す試みを続けたい。

## 参考文献

- 岩永勇亮 2015 「東九州の西唐津式土器・曾畠式土器—宮崎県域における様相とその伝播に関する一考察—」『本田道輝先生退職記念論文集』、本田道輝先生退職記念事業会
- 九州縄文研究会編 2013 『曾畠式土器とその前後を考える』(第23回九州縄文研究会沖縄大会発表要旨・資料集)
- 九州縄文研究会編 2014 『九州における縄文時代早期末～前期前葉の土器様相』(第24回九州縄文研究会大分大会発表要旨・資料集)
- 田中聰一 2018 「日韓縄文・新石器時代土器交流の一様相—曾畠式土器の成立と櫛目文土器との関係」『海峡を通じた文化交流』(第13回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会資料集)、九州考古学会
- 長崎市教育委員会 1984 『長崎市立深堀小学校校舎増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 廣瀬雄一 2013 「西唐津式土器再論」『佐賀県立名護屋城博物館研究紀要』第19集、佐賀県立名護屋城博物館

表6 調査対象遺跡一覧（九州考古学会2013・2014をもとに作成）

長崎県	所在地	轟B式	西唐津式	曾畠式
越戸崎遺跡	対馬市	○	○	○
夫婦石遺跡	対馬市			○
松崎遺跡	壱岐市	○	○	○
名切遺跡	壱岐市	○		○
鎌崎海岸遺跡	壱岐市			○
長崎鼻F遺跡	佐世保市			?
宮ノ首遺跡	佐世保市			○
柳遺跡	小値賀町			?
矢櫃海底遺跡	小値賀町			○
殿崎遺跡	小値賀町			○
野首遺跡	小値賀町	○	○	○
西ノ股遺跡	新上五島町	○		○
立石遺跡	新上五島町	○		○
頭ヶ島浜泊遺跡	新上五島町	○		○
頭ヶ島白浜遺跡	新上五島町	○	○	○
池塚遺跡	五島市			?
宇多尾遺跡	五島市			?
福江堂崎遺跡	五島市	○		○
江湖貝塚	五島市			○
白浜貝塚	五島市			?
中島遺跡	五島市	○	○	○
宮下貝塚	五島市	○	?	○
赤島遺跡	五島市	○		?
大板部洞穴	五島市	○		
泊崎遺跡	五島市			?
供養川遺跡	平戸市	○	○	○
千里ヶ浜遺跡	平戸市	○	○	○
沖田遺跡	平戸市			○
沖ノ島遺跡	平戸市			○
宮ノ浦遺跡	平戸市			○
つぐめのはな遺跡	平戸市	○		?
久吹浜遺跡	平戸市	○		?
姫神社遺跡	松浦市	○	○	○
桜井田遺跡	松浦市			○
柏ノ木遺跡	松浦市			?
湯の谷遺跡	松浦市			?
秋丸岩陰	松浦市			?
鷹島海底遺跡	松浦市			○
下り松遺跡	佐世保市			○
御堂池遺跡	佐世保市			?
目暗ヶ原D遺跡	佐世保市	○		?
橋川内洞穴	佐世保市	○		?
岩谷口第1岩陰	佐世保市	○		○
菰田洞穴	佐世保市	○		
大悲觀岩陰	佐世保市			○
平川原遺跡	佐世保市			?
岩下洞穴	佐世保市	○		○
上炭床岩陰	佐世保市			○
牟田堤遺跡	佐世保市			?
大門洞穴	佐世保市			○
宮の本遺跡	佐世保市	○		○
下本山岩陰	佐世保市	○		○
門前遺跡	佐世保市	○	○	○
小野F遺跡	佐世保市			○
烏帽子岳遺跡	佐世保市			?
天神洞穴	佐世保市	○		○
尼潟海岸遺跡	佐世保市	○		○
面高遺跡	西海市			?
天久保遺跡	西海市			?
寺島遺跡	西海市			○
雪浦清水遺跡	西海市	○	○	○
久留里遺跡	時津町		○	○
東上遺跡	長崎市			?
式見C遺跡	長崎市			○

遺跡名	所在地	轟B式	西唐津式	曾畠式
手熊貝塚C地点	長崎市			○
深堀遺跡	長崎市	○	○	○
辰ノ口遺跡	長崎市			?
為石遺跡	長崎市			○
菖蒲川遺跡	長崎市			○
脇岬遺跡	長崎市	○		○
宮田A遺跡	東彼杵町			○
綿打堤遺跡	東彼杵町			?
野岳遺跡	大村市			○
坂口館跡	大村市			○
大多武堤遺跡	大村市			?
下峰原高場遺跡	諫早市			○
貝津横島B遺跡	諫早市			○
浜田遺跡	諫早市			○
西常盤貝塚	諫早市	○	○	○
小野条里遺跡	諫早市	○	○	○
小野堀口遺跡	諫早市			?
小野宗方遺跡	諫早市		○	○
伊木力遺跡	諫早市	○	○	○
目島遺跡	諫早市			?
築崎遺跡	諫早市	○	○	○
筏遺跡	雲仙市			○
百花台D遺跡	雲仙市	○	○	○
魚洗川D遺跡	雲仙市			?
諫訪池D遺跡	雲仙市			?
上ヶ池遺跡	雲仙市			?
三会下町遺跡	島原市	○		?
有家堂崎遺跡	南島原市			?

## 佐賀県

遺跡名	所在地	轟B式	西唐津式	曾畠式
長ノ原遺跡	鳥栖市	○		○
岸田南遺跡	鳥栖市	○	○	
牛原前田遺跡	鳥栖市			○
戦場古墳群	吉野ヶ里町		○	?
香田遺跡	みやき町			○
宿北方遺跡	神埼市			○
船塚遺跡	神埼市	○	○	○
猿嶽A遺跡	神埼市			○
大門遺跡	佐賀市			○
金立開拓遺跡	佐賀市	○		○
川久保1区遺跡	佐賀市			○
六本黒木遺跡	佐賀市	○		○
鈴熊遺跡	佐賀市			○
大久保三本松	佐賀市	?		○
小ヶ倉遺跡	佐賀市	○	○	○
西畠瀬遺跡	佐賀市	○	○	○
東畠瀬遺跡	佐賀市	○	○	○
九郎遺跡	佐賀市	○	○	
竜王遺跡	小城市	○		○
千束遺跡	唐津市			○
伊岐佐中原遺跡	唐津市			○
菜畠遺跡	唐津市	○	○	○
中尾二ツ枝	唐津市	○		○
菅牟田荒谷	唐津市	○	?	○
西唐津海底遺跡	唐津市	○	○	○
赤松海岸遺跡	唐津市	○	○	?
白蛇山岩陰遺跡	伊万里市		○	○
金剛島遺跡	伊万里市			○
宮ノ前北遺跡	伊万里市	○	○	?
儀助平洞窟	鹿島市			?

## 福岡県

遺跡名	所在地	轟B式	西唐津式	曾畠式
天神山貝塚	糸島市	○	○	○
今山遺跡	福岡市	○	○	○
西新町遺跡	福岡市	○		?
湯納遺跡	福岡市	○		
広石古墳群	福岡市			○
田村遺跡	福岡市	○	○	
四箇古川遺跡	福岡市			○
四箇遺跡	福岡市	○	○	○
内野遺跡	福岡市	○		
大坪南遺跡	福岡市			○
中山遺跡	福岡市	○	○	○
脇山A遺跡	福岡市	○	?	?
栗尾B遺跡	福岡市			○
野中遺跡	福岡市	○		
椎原A遺跡	福岡市	○	○	○
柏原遺跡	福岡市	○		
梅林遺跡	福岡市			?
柏原K遺跡	福岡市			?
中村町遺跡	福岡市	○	○	○
大敷池遺跡	那珂川市			○
中原・ヒナタ遺跡	那珂川市			○
深原遺跡	那珂川市			○
観音山古墳群	那珂川市			○
門田遺跡	春日市			○
松木遺跡	那珂川市			○
柏田遺跡	春日市	○		
入道町遺跡	那珂川市	○		
四郎五郎池遺跡	那珂川市			○
薬師の森遺跡	大野城市		?	○
原口遺跡	太宰府市		○	
日焼遺跡	太宰府市	○		○
カヤノ遺跡	太宰府市			○
水城跡	太宰府市			○
宮ノ本遺跡	太宰府市			?
原遺跡	太宰府市	○		
宝満山遺跡	太宰府市	○		○
岡田地区遺跡群	筑紫野市			○
原遺跡	筑紫野市	○		
原田樺本ノ一遺跡	筑紫野市	○		○
原田辻遺跡	筑紫野市	○		
城ヶ原遺跡	筑紫野市	○		
大島遺跡	筑紫野市	○		○
金山遺跡	筑前町			○
塔ノ上遺跡	朝倉市			○
柿原野田遺跡	朝倉市	○		○
下町外畠遺跡	朝倉市	○		
金場遺跡	朝倉市	○		○
外之隈遺跡	朝倉市	○		
稗畠遺跡	朝倉市			○
山ノ神遺跡	朝倉市			○
上須川遺跡	朝倉市	○	○	○
楠田遺跡	朝倉市			○
天園遺跡	朝倉市	○		○
干潟向畦ヶ浦遺跡	小郡市			○
横隈山遺跡	小郡市			○
津古東宮原遺跡	小郡市	○		○
津古脇田遺跡	小郡市	○		
水洗遺跡	久留米市	○	○	○
筑後國府跡	久留米市			○
市ノ上北屋敷遺跡	久留米市			○
筑後國分寺跡	久留米市			○
横道遺跡	久留米市			○

## 大分県

遺跡名	所在地	轟B式	西唐津式	曾畠式	轟B式	西唐津式	曾畠式
持田遺跡	久留米市	○			○	○	○
野口遺跡	久留米市	○	○	○	○	○	○
安国寺遺跡	久留米市	○	○				
木塚遺跡	久留米市	○		○			
竹重遺跡	うきは市	○		○			
大碇遺跡	うきは市			○			
法華原遺跡	うきは市	○		○			
鳥越遺跡	うきは市			○			
古畑遺跡	うきは市			○			
下北島久清遺跡	筑後市	○		○			
長崎坊田遺跡	筑後市			○			
古島榎崎遺跡	筑後市			○			
二川貝塚	みやま市			○			
大道端遺跡	みやま市			○			
毛無貝塚	大牟田市			?			
上内・高頭遺跡	大牟田市			○			
楠橋貝塚	北九州市	○	○	○			
黒崎貝塚	北九州市	○	○	○			
黒崎城跡	北九州市			○			
穴生古屋敷遺跡	北九州市	○					
永丸遺跡	北九州市	○		○			
カキ遺跡	北九州市	○					
菊水町遺跡	北九州市	○					
新池坂本遺跡	北九州市	○					
上横代遺跡	北九州市	○					
丸ノ内遺跡	北九州市	○					
長尾尾登遺跡	北九州市	○					
中貫ミカシキ遺跡	北九州市	○					
貴川遺跡	北九州市	○					
上曾根遺跡	北九州市	○	○				
朽網南塚遺跡	北九州市	○					
朽網原遺跡	北九州市	○					
平尾台御花畠遺跡	北九州市	○					
さつき松原遺跡	宗像市	○		○			
沖ノ島社務所前遺跡	宗像市			○			
山鹿貝塚	芦屋町	○		○			
元松原遺跡	岡垣町	○	○	○			
新延貝塚	鞍手町	○		○			
日出橋遺跡	直方市	○	?	○			
中泉遺跡	直方市	○		○			
遠賀川河床遺跡（入道ヶ池）	小竹町	○		○			
遠賀川河床遺跡（竹の下）	小竹町	○		○			
目尾遺跡	飯塚市	○					
阿恵・向遺跡	飯塚市	○		○			
ヒイ田遺跡	飯塚市	○					
向田遺跡	飯塚市	○		○			
内野地区遺跡	飯塚市	○					
鯫田遺跡	飯塚市			○			
市津河床遺跡	福智町			○			
観音寺遺跡	添田町	○					
後遺跡	添田町	○					
ズイベガ原遺跡	添田町			○			
合田遺跡	赤村	○					
上伊良原櫻遺跡	みやこ町	○					
下伊良原塚本遺跡	みやこ町	○					
下伊良原原田ノ谷遺跡	みやこ町	○					
松丸D遺跡	築上町	○					
西八田平原遺跡	築上町	○					
小原岩陰遺跡	築上町	○		○			